

交通事故被害者支援事業（平成15年度）

交通事故被害者の支援

— 担当者マニュアル —



内閣府政策統括官（総合企画調整担当）

交通安全対策担当

ま え が き

平成15年中の交通事故による死者数は7,702人であり、昭和32年以来46年ぶりに7千人台まで減少するに至ったものの、発生件数及び負傷者数はともに増加の傾向に転じています。新たな交通事故被害者が日々増加し続ける中、交通事故は、いつ我が身に振りかかってもおかしくない非常に身近な出来事といえます。そして、ひとたび交通事故に遭遇すれば、被害者や遺族の方々は深い悲しみや辛い体験を長い間抱えながら生活することになり、その回復には多方面からのきめ細かな支援が必要となります。しかし、まだ被害者支援の枠組みが十分に整備されているとはいえない状況にあります。

そこで、内閣府では、国民が互いに支えあう、安全で安心できる交通社会の実現を目指し、新たに交通事故被害者支援事業を実施しました。

本書は、平成15年度事業の柱の一つとして、被害者支援のリソースの充実や支援担当者の技能の高度化を目的に、交通事故被害者の精神的被害に焦点をあてて作成したものです。ぜひ、被害者の方々が抱える問題等の理解のため、本書を役立ていただき、その結果、一人でも多くの交通事故被害者が回復に向け再び歩み出すことができるような土壌が醸成できれば幸いです。

最後に、本書の作成に御尽力いただいた委員の先生方や執筆者の方には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

平成16年3月

内閣府政策統括官(総合企画調整担当)付

参事官(交通安全対策担当) 二見 吉彦

執筆者紹介 本書執筆に携わった委員

■ 富田 信穂（とみた のぶほ）

〔現職〕 常磐大学人間科学部教授
社団法人いばらき被害者支援センター理事長
全国被害者支援ネットワーク副会長

〔専攻〕 犯罪学・被害者学

〔これまでの活動内容〕 大学において被害者などの講義を行なうほか、民間機関による被害者支援活動に携わっている。アメリカ合衆国を中心とする諸外国やわが国の被害者支援活動などに関する論文を執筆しているほか、さまざまな被害者についての実態調査にも従事している。

〔主な著書〕

「アメリカ合衆国における犯罪被害者の保護」『慶應義塾大学法学部法律学科開設百年記念論文集（慶應法学会篇）』慶應義塾大学法学部（1990）

『犯罪学』（共著）青林書院新社（1995）

『犯罪被害者の研究』（共著）成文堂（1996）

『犯罪被害者に対する民間支援』（共著）東京法令出版（2000）

「飲酒運転追放に向けた民間団体の取組み - MADD（アメリカ）の活動を中心に - 」『人と車』財団法人全日本交通安全協会（2001）など。

■ 井上 郁美（いのうえ いくみ）

〔現職〕 被害者遺族

〔専攻〕 建築学

〔これまでの活動内容〕 99年11月に東名高速で酒酔い運転の大型トラックに追突され、当時3歳と1歳の娘二人を失う。その後、悪質ドライバーの量刑見直しを求めて、全国の交通事故遺族らとともに刑法改正署名運動に取り組む。法改正が実った後も、全国各地を夫とともにまわり、飲酒運転の撲滅および命の尊さを訴える活動や学校での授業に取り組んでいる。

〔主な著書〕

『永遠のメモリー 天国のかなちゃん ちかちゃん 今日も大きな声で 唄ってますか』河出書房新社（2000年）など。

■ 大久保 恵美子（おおくぼ えみこ）

〔現職〕 東京都公安委員会指定 犯罪被害者等早期援助団体
(社)被害者支援都民センター 事務局長

〔これまでの活動内容〕 平成2年、長男を飲酒ひき逃げ事件で奪われたことから、被害者の人権が守られていないことを痛感し、平成3年、「犯罪被害給付金制度10周年記念シンポジウム」で、被害者を精神的に支える支援体制の必要性を強く訴えた。その結果、日本で初めて東京医科歯科大学の山上皓教授により「犯罪被害

者相談室」が設置された。

その後、保健師として保健所に勤務しながら犯罪被害者支援活動を行ってきたが、平成12年4月、「犯罪被害者相談室」が発展的に改組し「社団法人被害者支援都民センター」になったことを機に退職し、被害者支援に専念している。

また、自宅を開放し被害者自助グループ「小さな家」を主宰している。

[主な著書]

『犯罪被害者支援の軌跡』少年写真新聞社（2000）

『犯罪被害者に対する民間支援』（共著）東京法令出版（2000）など。

■辰野 文理（たつの ぶんり）

[現職] 国土館大学法学部助教授

[専攻] 計量犯罪学、被害者学

[これまでの活動内容] 筑波大学大学院経営・政策科学研究科修了。

法務省入省後、東京保護観察所、法務総合研究所研究部、法務省保護局、常磐大学国際学部を経て現職。犯罪被害者実態調査、交通事故の被害者に関する調査研究等多くの実態調査に携わる。

[主な著書]

『犯罪被害者の研究』（共著）成文堂（1996）

『住民主体の犯罪統制』（共著）多賀出版（1997）

『トラウマから回復するために』（共著）講談社（1999）

『犯罪被害者支援の基礎』（共著）東京法令（2000）

『被害者学と被害者心理』（共著）東京法令（2001）など。

■中島 聡美（なかじま さとみ）

[現職] 国立精神・神経センター 精神保健研究所 成人精神保健部 成人精神保健研究室長

[専攻] 精神医学（肩書き 精神科医、医学博士、臨床心理士）

[これまでの活動内容] いばらき被害者支援センター理事、被害者支援都民センター専門相談員、犯罪被害者等、トラウマを受けた人々の精神科治療、心理療法に従事。現在は、研究職としてPTSDをはじめとするトラウマの精神病理の病態研究、治療研究を行っている。

[主な著書]

『トラウマから回復するために』（共著）講談社（1999）

『被害者のトラウマとその支援』（共著）誠信書房 2001 など。

編 者 委員会名簿

現 職 等	氏 名
常磐大学人間科学部教授	委員長 富 田 信 穂
東京都相談員（交通事故担当）	伊 藤 勝
被害者遺族	井 上 郁 美
(社)被害者支援都民センター事務局長	大久保 恵美子
国土舘大学法学部助教授	辰 野 文 理
国立精神・神経センター 精神保健研究所成人精神保健研究室長	中 島 聡 美

執筆協力者

（社）被害者支援都民センター
頼 住 孝 子 スーパーバイザー
望 月 広 子 相談支援室長
阿久津 照 美 犯罪被害相談員
正 木 智 子 犯罪被害相談員
鷲 尾 洋 子 犯罪被害相談員
外 山 美砂子 相談兼総務
道 下 あかね 犯罪被害者直接支援者

タイトル / 目次

第1章 総論	1
はじめに	2
1. 本書のねらい	
2. 交通事故被害者支援についての基本的な考え方	
3. 本書の内容	
交通事故をめぐる諸問題	3
1. 交通事故とは何か	
2. 人身事故の被害者数	
3. 問題の種類およびそれに対応する支援の種類	
刑事事件をめぐる問題と被害者に対する支援	5
1. 過失犯の考え方	
2. 過失犯の量刑	
民事事件をめぐる問題と交通事故被害者に対する支援	9
1. 損害賠償責任	
2. 自動車損害賠償保障制度	
3. 任意保険制度	
交通事故被害者の受ける精神的打撃と交通事故被害者への支援	11
1. 交通事故被害者の受ける精神的打撃	
2. 危機介入サービス	
3. 自助グループ	
今後の課題	13
1. 交通事故被害者調査	
2. 警察官の対応	
3. 保険会社、各種相談窓口、民間機関	
第2章 交通事故被害の実態	17
はじめに	18
統計からみた交通事故被害	21
1. 交通事故の状況	
2. 交通犯罪の状況	
実態調査からみた交通事故被害	28
1. 交通事故被害者の生活はどのように変化するか	
2. 事故の相手に対してどのように感じているか	
3. 事故捜査にどのように感じたか	
4. どのようなニーズがあるか	
被害者相談からみた被害の状況	34
1. 事故後どのようなことに困ったのか	

2. 事故後、問題を感じた事柄はなにか	
3. どのような相談をしているのか	
4. ボランティア活動についてどう思っているか	
. 実態把握における課題	39

第3章 交通事故が被害者に与える精神的影響

. はじめに	44
. 交通事故の被害者の精神的反応	44
1. 交通事故被害実態調査の結果にみられる被害者の精神的反応	
2. 交通事故とトラウマ	
3. 精神的影響の全体像	
4. 交通事故被害者によくみられる精神的反応	
5. 交通事故の被害者にみられる精神疾患	
資料：心的外傷後ストレス障害の診断基準	
. 交通死亡事故遺族	61
1. 遺族の精神的影響	
2. 悲嘆反応の一般的経過	
3. 複雑な悲嘆反応（病的な悲嘆、あるいは外傷性悲嘆ともいわれる）	
4. 悲嘆が複雑になったり長期化する要因	
. 後遺症を抱えた被害者とその家族	68
1. 脳の外傷による後遺症	
手記 交通事故犯罪による脳外傷重度後遺障害者の実状	
2. 交通事故後遺障害者及びその家族の抱える問題と今後の課題	

第4章 交通事故被害者の直面する精神的課題への治療・対応

. はじめに	75
. 被害者の回復とは	76
. 被害者への対応で留意すべき点	78
1. 急性期の対応	
2. 支援者の基本的な態度	
. 精神科医療機関での治療	81
1. どのような場合に医療が必要となるか	
2. 精神科医療機関にはどのようなものがあるか	
3. 精神科医療機関はどのように探したらよいのか	

4. 精神科医療機関での治療	
・その他精神保健、福祉に関わる地域の公的な相談機関と その被害者支援における役割	87
1. 保健所	
2. 精神保健福祉センター	
3. 福祉事務所	
4. 児童相談所	
・精神保健福祉関係者への期待と役割	88

第5章 交通事故被害者支援関係者の対応 91

・はじめに	92
・危機介入	92
1. 被害直後の支援	
・緊急カウンセリング	93
1. 遺族への支援体制	
2. 回復過程を支えていく継続的支援を	
・死亡告知	95
1. 実際の方法	
2. 終了のタイミング	
3. 告知を通じて常に配慮すること	
4. その他	
・電話相談	97
1. 電話相談の対応で留意すべき事項	
2. 被害者の心情を受け止め傾聴する	
・面接相談	100
1. 初回面接時の注意点	
2. 中期面接時の注意点	
3. 終期面接時の注意点	

第6章 交通事故被害者および家族・遺族の会の役割 103

・はじめに	104
・自助グループとは	104
・交通事故被害者における自助グループ開催の意義	104
・被害者が求める支援	105
1. 希望している支援内容	
2. 調査結果から分かったこと	
3. 調査結果からの結論	
・自助グループの進め方	106

1．自助グループの目的	
2．参加者の目的	
．自助グループの効果	107
1．実践活動から	
2．調査結果から	
3．データからの結論	
．定例的な集いの進め方	109
1．事前準備	
2．開催時	
．開催中に留意すること	110
．(社)被害者支援都民センターの自助グループ活動の実際	110
．(社)被害者支援都民センターの自助グループ参加者の声	110
・清沢郁子さん、石杜朝子さん	
・久保田由枝子さん、鈴木共子さん	
I.自助グループの課題と必要な支援	112

第7章 交通事故被害者支援の具体例 113

．はじめに	114
．被害者遺族への対応事例から	114
1．危機介入を中心として	
2．面接相談を中心として	
．手記 悪質交通事故で子ども二人を失って	122
1．事故に遭遇して	
2．一番の危機	
3．プロに支援を求める	
4．自助グループに参加して	
5．もう一つの支援	

参考文献 129